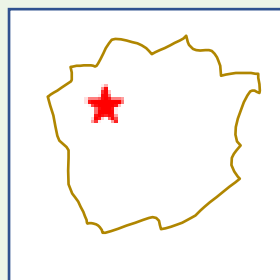


真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合（岡山県真庭市）

<協力機関> 真庭液肥研究会（真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合、真庭市環境課、真庭市農業振興課、JA、農業普及指導センター、市内液肥利用協力農家）

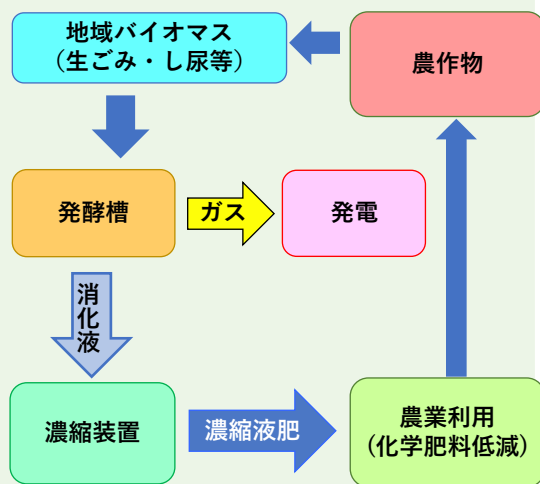
背景・課題

真庭市では平成26年から市内（一部）の生ごみやし尿を利用したメタン発酵によるバイオガス利用と、メタン発酵消化液肥（以下、「消化液」という。）を利用した水稻栽培等のモデル実証に継続して取り組んでいる。これまでの取り組みで、消化液の利用が一定の時期に集中することや、肥料成分濃度が低く（窒素濃度0.3%程度）単位面積当たりの散布量が膨大で作業効率の改善が必要であった。



みどり戦略実現に向けて

- ・同市では市内全域のバイオマス（生ごみ・し尿・浄化槽汚泥等）を資源化する新プラントの建設を令和6年度稼働を目指して進めている。本プラントは、老朽化した既存焼却処理施設の改修にあたり、真庭市の目指す「循環による持続可能なまちづくり」の方針にも合致し、かつ建築工事費や運営費等の削減効果も高いことなどから導入を決定。本プラントの稼働に伴い、処理量は増加し消化液は年間約8千tと大幅（現行の7～8倍）に増加する見込み。そのため、新技術を活用し、肥料成分を濃縮した消化液（以下、「濃縮液肥」という。）にすることで、効率的な散布が可能になる。
- ・濃縮液肥を水稻以外の作物でも安心して利用できる環境をつくるため、濃縮液肥のサンプルを用いてレタスの栽培実証や肥効分析に取り組み、結果に基づいた普及活動を行う。
- ・地域内における濃縮液肥の全量利用に取り組み、化学肥料の使用量低減と地域循環型農業を目指す。



成果目標

令和6年度目標

- 濃縮液肥の利用面積：約16ha → 100ha以上
- 製造される濃縮液肥の100%利用：濃縮液肥は新プラントの建設で増加する消化液から約800t製造される見込みで、これの100%利用を目指す。

取組のポイント

- ①調達：地域バイオマスをメタン発酵し、バイオガス及び消化液を利用
- ②生産：濃縮液肥として利便性を向上し、さらなる農業利用を図る（地域循環型農業）

取組時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
						①						
						②						

①調達



②生産



問い合わせ先

真庭広域廃棄物リサイクル事業協同組合
TEL 0867-45-7773